

CASBEE[®] 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)十条事務所 新築工事	階数	地上5F
建設地	京都市南区西九条西柳ノ内町8番地	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,250 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2019年1月4日
敷地面積	2,676.27 m ²	作成者	(株)竹中工務店
建築面積	1,462.75 m ²	確認日	2019年1月7日
延床面積	6,235.76 m ²	確認者	(株)竹中工務店



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 79% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 78%

④上記+ 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 アルミルーバーで覆われた全面ガラスの外壁は、縦格子が和テイストを感じさせる京都らしい外観であり、またルーバーは日射を遮りながらも室内に明るさと開放性をもたらすことで快適な空間をもたらす。省エネにおいては、エネルギー計測設備を設置し消費の内訳を分析把握することで高効率化を図っている。	その他 特になし	
Q1 室内環境 室内はF☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に使用している。また自動照明制御(昼光センサー)の採用や階段のトップライトなど自然光の有効利用をしている。	Q2 サービス性能 天井が高く、開口部広いため室外の情報を十分取り入れることができる。耐用年数の長い建材の使用や維持管理に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地を囲うように沿道に樹木を設置し、できる限りの良好な温熱環境に心がけている。
LR1 エネルギー エネルギー計測設備を設置し消費の内訳を分析把握することで高効率化を図っている。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材の採用やエコ製品の採用する等環境保護に努めている。ユニット部材や節水型便器を採用し、資源の有効利用に努めている。	LR3 敷地外環境 光害対策ガイドラインのチェックリストを満たしている。外壁三方にアルミルーバー設置しガラスの反射光の発生を低減している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される